

【議案1】

ESD-J 2021年度 事業報告（案）

＜2021年4月1日～2022年3月31日＞

I 概要

昨年度に引き続き、コロナ禍ではあったが、「ESDをめぐる最新の動向」、「気候変動問題について考える」という2つの重要な問題について学ぶ車座トークで始まった2021年度事業は、会員ならびに関係者のご協力と創意工夫により、持続可能な社会を目指すための様々な新たな取り組みを進めることができた。

シリーズで開催されたESD-J主催のオンラインセミナーや、全国9ヶ所で行われた環境省主催のローカルSDGs人材育成地方セミナーへの貢献、岡山でのESD研修事業、ESDカフェ、その他の多くのセミナーなどの活動は高く評価された。また、第2期ESD国内実施計画や生物多様性国家戦略に向けた重要な政策提言活動も行った。ESD-JのメーリングリストやESD活動支援センターのウェブサイト、SNSを通じて行われたイベント、助成金、顕彰、国際情報など関係者を支援するための様々な情報発信を行ってきた。コロナ禍のために中断していた「高等教育のためのESD（HESD）フォーラム」もオンラインではあるが、八戸学院大学との共催により開催することができた。

とりわけ今年度の大きな成果と言えるのが、2030年に向けた中長期計画の策定である。ESD-Jとして2030年に実現したい社会の姿を“あらゆる学びの場でESD実践の質と量が高まっている状態”と規定し、その実現に向けて人材育成事業、政策提言事業、国際連携事業という3つの大きな活動の柱を設け、それらの活動を効果的に推進できるような組織基盤の強化に取り組んでいくとの方針が合意された。それらの活動の具体化は、次年度以降に残された重要な課題である。

組織基盤強化の一環として、えるぼし¹、くるみん²、エコアクション21の取得に向けた活動は地道ながら、理事・職員の意識改革の上でも、また、団体の社会的評価にもつながるため、2022年度も継続していく。新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限され、形を変えざるを得なかった事業も多々あったが、本年度の経験は今後に向けたマイルストーンになったものと確信している。

ロシアによるウクライナへの武力侵攻は人命の尊重という最も重要な人権の蹂躪・破壊であり、戦争という最大の環境破壊に他ならない。SDGsが国連で合意され、世界中で取り組まれている現在、歴史の歯車を逆転させるプーチン政権の暴挙に断固抗議の意を表すと共に平和や民主主義の尊さをESD-Jとして再確認し、次年度以降の活動に生かす所存である。

【重点課題】（2021年度の事業計画より）

- ESD推進ネットワークの更なる発展に向けた支援
 - ◆ 新国内実施計画を受けての政策提言
 - ◆ 特に気候危機・生物多様性の視点からのSDGs・ESD推進
 - ◆ 地域におけるSDGs・ESDの推進
- 既存のSDGs・ESD推進団体との連携強化
- 自治体との連携推進
- 民間企業との協働の推進
- アジアを中心とする国際協力

¹ 厚生労働大臣による女性の活躍推進の状況などが優良な企業、団体の認定制度

² くるみん：厚生労働省が仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業、団体を認定する制度

II ESD推進事業

1 ESD推進ネットワークの更なる発展に向けた支援

(1) 新国内実施計画を受けての政策提言

2022年5月31日に決定された第2期ESD国内実施計画（第2期計画）に向けてESD-Jが提出した意見の多くは、2021年4月のパブリックコメントの対象となる国内実施計画（案）に反映されており、ESD-Jとしては、SDGsとESDの繋がりを明確化している点、マルチステークホルダーのパートナーシップを重視している点、個人の変容と社会の変革を目指すことを明示している点等、この案を高く評価しつつも、パブリックコメントに際し、国内実施計画（案）のさらなる改善に向けた意見、国内実施計画に基づく具体的な施策の展開に向けた意見を5月6日に提出した。第2期計画に対するESD-Jの提言を踏まえ、さらに文部科学省、環境省担当官と今後のESDの推進に向けた課題と対策等について意見交換を行った。

この計画を踏まえ、ESD-Jでは、以下の活動を重点的に推進することとした。

- ① SDGs・ESDに関する基本的な知識の周知普及、研修の充実を図る。
- ② 持続可能な社会づくりに向けた重要な課題である気候変動問題、生物多様性問題やライフスタイルの変革に向けた取り組み等に関する教材・プログラムの整備を進める。
- ③ 現場レベルの市民社会組織を含む地域でのマルチステークホルダーの対話の推進を支援する。
- ④ ESDに関する政府とステークホルダーとの意見交換に関し、ESDに関する政府と幅広いステークホルダーとの定期的な意見交換の場づくりに努める。
- ⑤ ユース世代がSDGsやESDに関わる各種の政策決定に参加・貢献できるよう、ユース世代によるそれらの政策決定プロセスへの参加を促進する。
- ⑥ 我が国の先駆的な取組の国際的な発信を促進するための仕組みづくりに貢献する。

(2) 生物多様性に関する教育の推進に向けた取組

2020年11月に日本環境教育フォーラム（JEEF）とともに提出した提言を踏まえ、生物多様性に係る教育の重要性について継続的に環境省担当官と意見交換を行った。その結果、2021年7月に取りまとめられた「次期生物多様性国家戦略の策定に向けた研究会」報告書において、生物多様性に係る教育の重要性について明記された。

同年8月20日には環境省担当官とESD-J関係者との意見交換会を開催し、ポスト2020生物多様性枠組と次期生物多様性国家戦略の検討状況について情報を得るとともに、生物多様性に係る教育者との連携の重要性について強調した。

同年12月17日に開かれた中央環境審議会生物多様性国家戦略小委員会第2回会合のヒアリングに際し、教育部門としては初めてJEEFとともにプレゼンテーションを行い、教育、特に学校教育の重要性と教育者との連携の必要性等について意見を述べた。

2022年1月に開かれた中央環境審議会生物多様性国家戦略小委員会第2回会合で示された「次期生物多様性国家戦略骨子（案）」、同年3月に開かれた第3回会合での「次期生物多様性国家戦略素案の概要」では生物多様性に係る教育の重要性について一定の記述が行われていることを評価しつつも、生物多様性に係るステークホルダーとして教育者が明示されていないことから、明記するよう、引き続き働きかけた。

(3) 2030年に向けたESD-J活動計画の策定（各WGのリーダー）

ESD-Jは、2019年に「SDGs 達成に貢献するESD-Jのビジョンとミッション」を作成したが、ESD for 2030の枠組みの中で改めてESD-Jが果たすべき役割の明確化、そして定量的、定性的な指標を設定した中長期目標を策定することが必要と考え、会員の意見を幅広く聴取することに努め、「2030年に向けたESD-J活動戦略」を作成した（別添補足資料1参照）。

2030年に向けたESD-J活動計画

ESD-Jとして2030年に実現したい社会の姿は、あらゆる学びの場でESD実践の質と量が高まっている状態である。

- ・あらゆる学びの場＝学校教育だけでなく、地域、企業、家庭なども含む。子どもからシニアまであらゆる世代
- ・ESD実践の質＝各個人の行動変容や、社会参画、社会変革を可能にする実践
- ・ESD実践の量＝実践が行われている場の拡大と回数及び関わる人の増加

4つの目標と7つの指標を策定し、人材育成、政策提言、国際連携、組織運営の4つのワーキンググループ（WG）において具体的な活動計画を検討した。

① 人材育成WG（阿部理事、重理事、池田理事、小金澤理事、鳥屋尾理事、小玉理事）

本WGは人材育成事業の3本柱（①ESD-Jによる研修事業の実施、②自治体、教育委員会、企業等の研修の支援、③全国規模のコーディネーター推進）をベースに、ESDの取り組みに関する評価手法の開発や既存のカリキュラム・制度等の整理を関連機関等と進めていく。また、現在行っているオンラインセミナーや政策提言学習会、国際会議に関心を有する人を対象とした会議の開催、ESD/SDGsをテーマとした英語での学習機会の提供等は政策提言事業及び国際連携事業とも重なることから、相互の調整の上、効果的に取り組むことを確認した。また、これらの事業推進の上で効果的な情報発信と会員及び他団体とのコミュニケーション・情報収集が重要であることも確認した。

② 政策提言WG（池田理事・新海理事・大島理事・小玉理事）

本WGは、目標に基づいた計画を検討するために計2回の会議を開催した。そこでは、政策提言に向けた会員との意見交換を踏まえて、環境省・文科省、ESD議連や地方議員等に、政策提言を行っていくことが確認された。また、気候変動問題の重要性に鑑み、気候変動教育に係る提言や政策対話等も必要に応じて他団体と協働しながら行っていくことが確認された。

③ 国際連携WG（鈴木理事、宇賀神理事、三宅理事）

今後10年間の重点活動として、アジアNGOネットワーク（ANNE）をはじめとする海外とのESD推進ネットワークを構築・強化し、有益な情報の収集発信を行うとともに、ESD-Jが発信する情報を通じて、国際社会と交流できる人材、国際的な舞台に出ていく人材を育成する。具体的には、海外との情報の相互発信と学び合い、国内における関係者とのグループ形成の検討（海外との交流のある団体、大学生含む）等を行う。2022-2023年度の重点活動として、①海外との情報の相互発信と学び合いの推進（海外情報の国内発信、ESDに関心のある教員・学生等のリストアップ、国際会議に関心のある人に対する説明会の開催等）、②ESD関係者との交流の促進、③国際事業の検討・実施を特定した。

④ 組織運営WG（鈴木理事、福井理事、下村理事、小金澤理事）

組織基盤の強化に関し、①ガバナンス体制を見直し、組織の意思決定の透明化、可視化を進めること、②組織の若返りを図り、組織の中核をなす者の世代交代を進めること、③組織の安定的な維持のための財政基盤の強化を図ること、④会員満足度を高める方策等の充実により会員の拡大を図ることの4つが重点課題とされた。

検討方式として、様々な課題があるために組織運営WG担当理事だけでなく、多くの理事からの

意見をまとめる形で整理したいとの提案が行われ、課題ごとに議論のたたき台となる21の提案が作成され、それらの提案に対する理事、事務局に対する意見照会が行われた。

なお、組織基盤の強化には慎重な検討を要するため、2年程度の期間をかけて定款を含む組織規則の改訂や世代交代を実現することが適切との意見が表明された。

(4) ESD活動支援センター事業の情報収集・発信業務

今年度は、日本環境協会（JEAS）が主として全国センターの運營業務を担ったが、その中でESD-JはESD活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信業務を請け負った。特に地方センター、地域拠点から収集する以外の国内情報、国外情報の収集と発信に注力した。ウェブサイトを通じた情報の受発信の業務を通じて、より多くの人々が情報を有効活用すること、情報の質を高め、情報の訴求力を高めることを目指した。本業務には、小金澤理事（責任者）、鈴木理事、横田事務局長、齋藤事務局員の4名を中心に取り組んだ。

国内外の情報及び地方ESD活動支援センター、地域ESD活動推進拠点等が収集した国内情報を全国センターのウェブサイト合計524件掲載した。（海外情報60件、国内情報464件）

■ 表1：海外情報の収集・掲載実績

掲載情報の種類	掲載月										件数 合計
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
海外1. イベント関連情報	4	2	2	4	2	3	1	3	2	1	24
海外2. イベント等の結果情報	3	2	1	0	0	5	0	0	0	1	12
海外3. 報告書・出版物等	0	2	5	2	4	4	0	2	0	1	20
海外4. その他	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4
小計	7	7	8	6	7	14	1	5	2	3	60

■ 表2：国内情報の収集・掲載実績

掲載情報の種類	掲載月										件数 合計
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
国内1. イベント等の情報	8	23	37	34	58	30	32	24	29	3	288
国内2. イベント等の結果	0	0	7	1	0	2	2	0	0	0	12
国内3. 報告書・出版物等	3	3	9	2	2	1	0	0	0	0	20
国内4. 教材・プログラム	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
国内5. 助成金・補助金	3	12	7	17	14	12	11	8	11	8	105
国内6. アワード・表彰	1	13	9	5	1	2	0	0	0	0	32
国内7. 施設・場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国内8. 人材派遣制度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国内9. その他	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	5
小計	15	52	71	60	75	47	46	32	40	26	464

地方ESD活動支援センターのウェブサイトには、各センターの依頼を受けて、北海道センター138件、近畿センター36件、四国センター77件の合計251件を掲載した。

また、ESD活動支援センターのウェブサイトの訪問者の数、属性、傾向、どのような掲載記事が多く閲覧されているかをモニターするのにGoogleアナリティクスのデータを分析した。

(5) HESDフォーラム推進事業

2021年度はコロナ禍により休止していた「高等教育におけるESD（HESD）フォーラム」活動を再開することとし、2020年度に作成された過去のHESD参加者リストの見直し、アップデート

を行うとともに、第14回総会・発表会をオンラインベースで開催した。

第14回総会・発表会は、2021年11月13日13:00～16:30にかけてオンラインで開催され、15大学から22名の参加者を得た。会議のプログラムは以下の通りであり、八戸学院大学による基調講演後、北九州市立大学、相模女子大学、金沢大学及び琉球大学の学生、教員からの発表が行われた。

- 13:00～13:05 開会、阿部 治 会長による開会挨拶
13:05～14:00 総会
14:00～15:00 基調講演：八戸学院大学のSDGs・ESDへの取り組み
八戸学院大学 水野 眞佐夫学長、井上 丹学長特別補佐
15:00～16:30 大学、学生による活動報告
- 副専攻環境ESDプログラムにおける「小」大接続—大学生による理科教育の実践：北九州市立大学 地域共生教育センター 准教授 石川 敬之、地域創生学群2年 大友 天
 - 相模女子大学英語文化コミュニケーション学科でのSDGs教育の実践：相模女子大学学芸学部英語文化コミュニケーション学科 九里徳泰・中村 真理
 - 北陸における「SDGs達成に向けたeラーニング教材開発」を中心とする教員等の人材育成について — 北陸ESD推進コンソーシアムの取り組み —：金沢大学 加藤 隆弘・池端 弘久
 - 琉球大学のESD/SDGs達成に向けた 教育の取組み—SDGs推進室の役割と期待—：琉球大学国際地域創造学部准教授／SDGs推進室 大島 順子
- 16:30 閉会

① 総会における議論の概要は以下の通りであった。

ア HESDフォーラム事務局からこれまでのHESDフォーラムの活動経緯、ESDをめぐる最近の動向と高等教育機関に対する期待、HESDフォーラムが抱える課題及び本日の総会で討議したい事項について説明。

イ 2020年度に、ESD-Jを常設事務局とすることを決定。

ウ 過去の参加者リストを基に2020年度にフォーラム会員（候補）リストを再編。

エ 今回はESDに係る教育大学にも案内を送付。奈良教育大学加藤学長、宮城教育大学見上前学長、大分大学河野氏等が参加した。

オ 組織の若返りを図るため、会長、副会長の交代を提案。

[現状] 会長・阿部 治（立教大学名誉教授）、副会長・阿部宏史（環太平洋大学副学長／岡山大学名誉教授）、鈴木克徳（金沢大学元教授）

② 検討すべき課題として以下の事項を指摘。

ア これまでフォーラム開催経験大学としてきた幹事体制の見直し

イ フォーラムメンバーによる共同研究の検討

ウ 以上を踏まえたフォーラムの規定の見直し

エ ワーキング・グループ(WG)により次回フォーラムまでに報告を取りまとめることを提案。

③ 結論

ア 全会一致で三好徳和徳島大学教授を会長に、大島順子琉球大学准教授を副会長に選任。

イ 第15回HESDフォーラムを2022年秋に八戸学院大学で開催する。新型コロナウイルスの感染状況を考慮しつつ、できる限り対面の会議を開く方向で調整する。

ウ 事務局が指摘した課題を検討するためにWGを設置することを合意。事務局が会長、副会長

と相談してWGの業務、活動スケジュール等をまとめた文書を作成し、WGへの参加者の募集を行う。

WGの業務、活動スケジュール等をまとめた文書は、2022年1月3日に、議事概要（案）とともに会議の参加者等に送付された。

2 地域におけるSDGs・ESDの推進

(1) 令和3年度ローカルSDGs人材育成地方セミナー業務

環境省からの請負業務により、全国区の事業を地域担当理事の協力を得て実施した。環境省本省との連絡調整および広報活動は、東京の事務局と鈴木理事が担当した。

① 事業の背景と目的

社会課題が複雑化する昨今、地域の課題の解決については、環境の面からだけでなく、経済的及び社会的な面からの総合的なアプローチが必要である。地域循環共生圏を創造し、地域の脱炭素化を進め、地域の魅力と質を向上させて地方創生に貢献するためには、地域の特性と強みを活かしながら、地域内外の様々な人たちが連携し、協働で地域課題の解決に取り組むことが求められている。

この事業は、地方に居住・勤務し、環境課題を中心とした地域課題の解決に取り組むポテンシャルを有する人材をターゲットとしてセミナーを開催することにより、それぞれの地域での脱炭素社会の実現、持続可能な地域づくりに主体的に関わる人材の気付きを促し、各会場を中心とする地域のネットワークにつなげることで、次なる行動を起こすための普及啓発を行うことを目的としている。

② 実施概要

2021年12月から2022年2月にかけて、全国の8地域で、それぞれの地域が抱える課題を踏まえ、持続可能な地域づくりに向けた様々な創意工夫について議論された。各地方セミナーとともに、地域の課題に詳しい関係案内人による地域の現状、課題や地域での取り組みについての紹介、講師による講演を聞いたのち、講師と関係案内人との対話、会場参加者やオンライン参加者たちとの質疑応答が2時間をかけて行われた。会場参加とオンライン参加とのハイブリッド方式を基本とし、地域の人たちの交流の場となるような会場で開催され、各地方セミナーとも活発な質疑、コメントがなされた。地方セミナーの後、2022年2月に東京で開かれた全体セミナーでは、それらの特徴的な部分について取り上げながら、全国の事例を踏まえ、今後の地域づくりに向けたヒントを探った。

③ 開催地・全体スケジュール等総括表

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
月日	12月19日	12月4日	1月16日	1月30日	1月23日	12月12日	2月6日	1月29日
開催地	北海道 日高町	宮城県 大崎市	山梨県 北杜市	長野県 飯田市	京都府 京都市	岡山県 岡山市	徳島県 板野郡	長崎県 対馬市
参加者数	81名	72名	59名	108名	86名	109名	88名	120名
テーマ	アウトドア業と ローカル SDGs	次世代の眼 から見る大崎 耕土SDGs アクション	森という場の 可能性：子 どもとひらくロ ーカルSDGs	若者と考える 持続可能な遠山 郷の未来	パートナーシッ プで育む京都 のごみ削減 活動	SDGs 海と 川を守ろう 実践セミナー	食から持続 可能な地 域づくりを考 える	海洋プラスチ ックから考 える 対馬型 SDGs
講師・関係案内人	1名+1名	2名+1名	1名+1名	1名+3名	1名+2名	1名+1名	1名+1名	1名+1名

地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州
評価 (大変満足 +満足)	91%	82%	86%	86%	92%	86%	82%	89%
特徴	過疎地における自然資源を活かした活性化	水管理のグリーンインフラと地域資源活用工夫	アルプス南麓の自然豊かな地域での自然教育	人口減少地域におけるUターン、Iターン	京都の祭りのごみ減量化と里山保全	岡山でのごみを減らし、海を守る活動	昆虫食によるタンパク源の確保と食品ロス対策	地域課題の教育資源としての活用
キーワード	よそ者、自然資源、顔の見える繋がり	世界農業遺産、渡り鳥、人や文化を活かした地域資源活用	幼児教育、自然体験、多様性の尊重、全体のつながり	新しい観光、霜月祭、Uターン、Iターン、人と人との繋がり	元栓を閉める、祇園祭のごみゼロ大作戦、1日1エコ/ぬか漬けチャレンジ	ごみの減量と回収、初めの一步、きれいな海と豊かな海	食から見た持続可能性、食糧確保、食品ロス、サーキュラーエコノミー	日本海の入り口としての対馬、移住者の力、教育資源としての海ごみ

④ 参加者へのアンケート結果を踏まえた総括

ア セミナーの構成、講演内容等は高い満足度を得たと評価できる。また、セミナーを受け、行動を始めようとの回答が地方セミナー平均で65%と大変高いことも高く評価されるべきと考えられる。

イ セミナー全体を通してのべ931名が参加した。コロナ禍の影響を受けたことを考慮すれば、平均90名という地方セミナーの参加者数は、目標の100名程度は下回るものの、それなりに評価できると考えられる。他方、全体セミナーについては、期待したほどの集客ができなかった。これは、特定地域に紐づいていないことによる集客の難しさも一因と考えられるが、参加者増に向けた広報周知戦略の見直しが必要と考えられる。

ウ セミナー参加者の年齢構成に関しては、平均40%という若者層の割合は、若者層の発掘を目指す本セミナーの趣旨に照らして概ね妥当と考えられる。他方、50代以上の高齢者の割合が各セミナーともに高かったことは、地域創生に占める高齢者の位置づけが大きいことを示唆している。若者層の発掘と併せて、地域創生、ローカルSDGsにおける高齢者層の重要な役割を見直すことが求められよう。

エ (潜在的) 関係人口が30%弱であったことをどう評価するかは判断が難しい。(潜在的) 関係人口を増やすことを目的の一つとすると考えれば、より多くの関係人口の参加を期待することも考えられるが、地方セミナーが特定地域のローカルSDGsを論ずる場であることを考慮すれば、当該地域の人たちの参加が多いことは当然であり、(潜在的な) 関係人口であると認識する者が30%いたということは、大変高い割合であると評価することもできよう。

(2) 岡山ESDコーディネーター研修の企画・運営

岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会(岡山市市民協働局市民協働部SDGs・ESD推進課)より業務委託され、中国地方担当理事である池田理事が現場実務を担当した。本業務は、「岡山ESDプロジェクト」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として行う「ESDコーディネーター研修」の7年目で、ESD企画書作成ワークを通して実力のつく研修プログラムの実施に努めた。実施にあたっては、岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるようにしている。

① 事業期間：2021年6月10日～2022年3月14日

② 事業の趣旨：SDGsを視野に入れた地域づくりのために、グローバルな視野を持ちながら、地域を舞台とした課題解決に向けた学び合いや、活動の場を企画・実施するとともに、様々な人や団体をつなぐことができる人材(ESDコーディネーター)に必要な考えやスキルを身に

つけられる研修を行う。

③ 受講者人数：12名

④ 日時・内容：

ア 第1回研修（ESD/SDGs及び企画の全体像を理解する）

〔日時〕 令和3年11月18日（木）10時～17時

〔内容〕「ESD/SDGsとは?」、「企画について」（具体的事例から考察する）、「企画書の書き方と解説」、「Q&A」、「ふりかえり」等。

イ 第2回研修（個別相談会）

〔日時〕 令和3年12月2日（木）10:00～15:00

〔内容〕 受講者1人当たり約1時間の個別相談。

ウ 第3回研修（プロジェクト・講座の作り方を理解する）

〔日時〕 令和3年12月16日（木）10:00～16:30

〔内容〕「第1回のふりかえり」、「前提条件・企画意図の共有」、「企画の概要書づくり」、「企画の概要書を書いてみる」、「グループワーク」、「Q&A」、「ふりかえり」等。

エ 第4回研修（企画の発表と実践に向けて）

〔日時〕 令和4年1月13日（木）10:00～16:30

〔内容〕「企画書発表会」、「交流会」、「みんなの疑問をみんなで考える」、「全体総括（今後の取組について、ふりかえりシート記入、修了証授与とふりかえりの発表等）」等。

⑤ 成果及び課題

受講者には事前に活動内容や抱えている悩みや問題などを書いて出してもらっていたことで、研修内容の検討や、グループ分けなどを的確に行うことができた。コロナ禍ということもあり、今期は受講生の数を例年の6割程度にしたが、研修日程と内容から受講生の人数は今回の12名がちょうど良かった。前年までの20名だと皆が発言したり、グループ発表をしたりするにも時間がかかり、時間が不足しがちであった。その点が解消されたこともあり、受講生にとってより満足度の高い充実した研修ができたように思う。

受講生の人数を絞ったことで、最終日に全受講生が交流できる時間を組み込むことができた。この点も受講生の満足度、充実度を高めることにつながった。交流タイムでは、全受講生がプレゼンをし、それに対して他の受講生が2種類の付箋を使って連携や応援の意思表示と、どういう具体的な支援ができそうかを伝えるプログラムを行ったが、研修後へとつながる人的ネットワークづくりにもなり、研修の終了後には、受講生によるこの研修関係者のLINEグループもでき、研修後の交流等も進んだ。

今後は、受講生が増えても交流時間や人的ネットワークづくり等ができる構成となるように、カリキュラムをバージョンアップさせていきたい。

（3）羅臼町における持続可能な地域社会づくりに向けた人材育成事業

① 羅臼町ESD研修会

ア 日時：令和3年7月27日9:45～15:15

イ 趣旨：主体的に学び持続可能な羅臼を力強く切り開いていく子どもたちの育成に向けて、「知床学」を中心としたふるさと学習をさらに充実させるため、ESD/SDGsについての理解を深める。

ウ 対象：羅臼町内教育関係者（幼小中高教員等：65名）

エ 会場：羅臼町立知床未来中学校 多目的ホール

オ 方法：講義についてはオンライン、ワークショップについては対面形式とする。

カ 主催：羅臼町、羅臼町教育委員会、ESD-J、立教大学ESD研究所、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立日高青少年自然の家、「体験の里」日高から体験の風をおこそう運動実行

委員会

講義①	「ESD・SDGs入門～学習指導要領とESD・SDGs」小金澤 孝昭（ESD-J理事、宮城教育大学名誉教授）
講義②	「地域の持続可能性に向き合う学校ESD～長野県飯田市遠山郷の事例を中心に～」小玉 敏也（ESD-J理事、麻布大学生命・環境科学部教授（大学院環境保健学研究科教授兼務）、立教大学ESD研究所客員研究員） コーディネーター：鈴木 克徳（ESD-J理事）
ワークショップ	「今後の知床学の展開に向けて」 コメンテーター：金澤 裕司（元羅臼町教育委員会環境教育主幹） ファシリテーター：中田 和彦（ESD-J理事、国立日高青少年自然の家所長） コーディネーター：鈴木 克徳（ESD-J理事）

② 地域学習交流事業

ア 日時：1回目 2021年12月3日 13:50-14:35

2回目 2022年2月8日 13:50-14:35

イ 趣旨：自然環境が大きく異なる地域で生活する児童が、地域学習に関する交流を通して、お互いの良さへの理解を深めるとともに、自らの地域の良さと課題を再確認し、持続的な地域づくりの担い手としての素地を身につける。

ウ 目的：1回目：学校紹介や地域紹介、双方向の質問交流

2回目：知床学（交流先のふるさと学習等）の成果発表

エ 参加者：羅臼町立春松小学校（北海道）5・6年生、教員

竹富町立上原小学校（沖縄県）5・6年生、教員

日高青少年自然の家 中田所長、是安主任企画指導専門職

ESD-J理事・大島 順子、事務局長・横田 美保

オ 方法：オンライン（ZOOM）

カ 今年度の成果（教員のコメント抜粋）：オンラインはリアルタイムでの交流が可能であり、効果的であった。子どもたちからの「やって良かった」という生の声が嬉しかった。子どもたちの意欲・学びの成果を交流できて良かった。相手にどのように説明するとよいか、考える機会になった。オンラインでの学習に慣れてきた。質疑応答の中で、自分の地域の知らなかったことが、次の学習につながる内容だった。発表では、成果として学んだことをしっかり出せていた。

キ 成果（事務局の国立日高青少年自然の家より）：プレゼン、コミュニケーションの力は、このようなことを繰り返していくことで、学校の文化となるように感じられた。互いの給食に興味をもつという子どものリアルな興味を入口にして発展させることもよいのではないかと。同じ日本国内でも異なる文化をもつ地域に対する興味や共感を得ることは、ESDの基盤と捉えることができ、交流の様子を見て、有意義な機会と感じた。

ク 提案：交流のタイミングや流れは良かったものの、もう少し時間が長くてもよい。予め、子どもたちにどんなことを知りたいのかを教員間で交流しておき、実際の交流で教え合えるとよい。単元を入れ替えて、互いの学習が終わるころに、調べたことを伝え合えるとよい。

(4) その他事業等

会員、一般の方々にESD-Jの活動、並びにESDに関連する様々な分野の活動に関心を高めてもらい、ESD的な行動変容を起こすきっかけ作りを積極的に創出した。

① 車座トーク

ア 実施日時：6月19日（土）15:00～17:00

イ 参加者：86名、講師2名

ウ 講師：文部科学省国際統括官付国際戦略企画官・石田善顕さん、認定NPO法人気候ネットワーク国際ディレクター・平田仁子さん

エ 内容：今回は、第1部「ESDをめぐる最新の動向」、第2部「気候変動問題について考える」という2部構成で行われた。第1部は石田善顕さんから、5月17～19日に開催されたユネスコ主催ESD世界会議の結果、ベルリン宣言、第2期ESD国内実施計画の策定と実施等についてお話しいただいた。第2部は、平田仁子さんに、2050年カーボンニュートラルに向けて大きなうねりが生じている気候変動問題に関し、最新の内外の動向、特に石炭火力の廃止に向けた取り組みの重要性について、また、気候変動に関する教育をより体系的に行う必要性、若者に社会変革をもたらすような意識を醸成することの必要性等について、長年にわたり国際的な活動に携わってきた立場からお話しいただいた。

② 未来につながるふさと基金の助成を受けて実施したイベント（計4回）

ア 事業期間：2021年4月1日～12月31日

イ 事業の目的：「未来につながるふさとプロジェクト」は、キャノンマーケティングジャパン、パブリック・リソース財団、公益財団法人日本自然保護協会の3者と採択団体がそれぞれの強みを活かし、広く一般の方に対して生物多様性保全の重要性を伝えるという目的の達成に取り組むものである。

ウ 本事業の目的：生物多様性の喪失、自然環境の破壊等、私たちの社会・地球の持続可能性を脅かす実に様々な事象が起こっている。その解決のためには、直接的な原因を取り除くのみならず、間接的な要因を取り除く包括的な取り組みが必要である。消費者一人一人の力は小さくとも、集まれば大きな力となり、市場メカニズムを動かす事のできると考えており、そのための担い手の育成を目指す。

(ア) 第1回：「わくわく自然探検！～様々な生き物との出会い～」(オンサイトイベント・千葉県)

- 実施日時：7月11日（日）10:00～14:30
- 参加者：13名（小学生3名、中学生1名、成人9名）
- 講師：千葉県自然観察指導員協議会・晝間初枝さん
- 協力団体：谷当里山計画NPO法人バランス21、わたしの田舎・谷当工房
- 内容：生き物の捕獲・観察会・解説の実施
- 参加者の感想・行動変容：生き物の捕獲、観察、生態系ピラミッドなどのゲームで多様性を実感することができた。楽しみながら生物多様性への関心を高めることができた。全員が次回もこのようなイベントに参加したいと回答した

(イ) 第2回：ESD カフェ Tokyo 「サステナブルなコーヒー×SDGs」

- 実施日時：9月18日（土）13:00～15:00
- 参加者：32名、講師2名
- 講師：埼玉大学教授・市橋秀夫さん、国際協力機構JICAコーヒー専門家・三本木一夫さん
- 内容：コーヒーを題材に、私たち消費者の商品選択が、社会に与えるインパクトについて、サステナブルなコーヒーとは何かについて学んだ。グループディスカッションでは意見交換をしながら、どう行動に繋がられるかを考える契機を創出した。
- 参加者の感想・行動変容：個人のライフスタイルを見直すこととともに、経済の仕組み

にも目を向けたい。サステナビリティは社会、環境、人権、産業全体、バリューチェーン全般への配慮、対応という多面的な取り組みが必要との感想があった。イベントを契機に10名以上がサステナブルなコーヒーの購入を実際に行った。

(ウ) 第3回：ESD カフェ Tokyo「身土不二」身体を通して地域を学び、地域の安心食材を食べて元気に育て！

- 実施日時：10月31日（日）13:00～15:00
- 参加者：28人、講師2名
- 講師：千葉県いすみ市の農林課主査・鮫田晋さん、社会福祉法人にじのいえ／むぎのこ保育園理事長・鈴木大輔さん
- 内容：鮫田さんからは、いすみ市の学校給食を有機米、有機野菜に転換する市の取り組みと、同地域の小学校における食農教育・生物多様性の学びについてご説明いただき、鈴木さんからは埼玉県北坂戸エリアにおいて保育園を中心に実施されている食育・環境教育について、並びに半径500m圏内での持続可能な地域づくりの取り組みについてご説明いただいた。持続可能な地域づくりを子どもたちの自然体験、食育、有機農作物の給食への導入等の視点から考えた。
- 参加者の感想：「食」の話題から派生して、長寿社会のキーワードが「社会参加」だとお教えいただき、多世代による食を通じた活動の可能性を感じられた。未来の「食を守る」ことは、持続可能な生活、全てに繋がっているとの感想があがった。

(エ) 第4回：ESD カフェ Tokyo「地球にやさしいパンを食べる～小麦と生物多様性～」

- 実施日時：11月23日（火） 17:00～19:00
- 参加者：28人、講師2名
- 講師：パン・オ・スリール店長・須藤宏幸さん、前田農産食品株式会社 代表取締役・前田茂雄さん
- 内容：近年は、国産小麦の需要が増えてきているとはいえ、輸入小麦への依存度は高く80%以上を輸入に頼っている。輸入される小麦に対するポストハーベストやプレハーベストの残留性農薬の問題は深刻だが、一般的にはほとんど認知されていない。身近なパンをテーマにパン屋さん、小麦の生産者それぞれの立場から、安心安全で美味しいパンと原料について学び、消費者として小麦の生産者を支え、美味しいパンを食べ続けるために必要なことを考えた。
- 参加者の感想：日々の食品選びをより気を配りながら実践したい。小麦の品種と産地を確かめるようにしたい。消費者として日本の小麦生産者をこれからも支えていきたい。パンを作る人、原料の生産者、畑の生態系のバランス、どれが欠けても私たちは、美味しいパンを食べることができないと実感することができたとの感想があがった。

③ かすかべSDGsフォーラム

2022年3月20日に開催された春日部市主催のかすかべSDGsフォーラム（オンライン開催）の親子向けのセッション、並びに大人向けのセッションの企画・運営を行った。同事業は主に春日部市民を対象に、SDGsについて学び、自分事として地域の課題解決のための行動を起こすきっかけづくりを目的としている。特に大人向けのセッションは、かすかべSDGsパートナーズに登録している企業、団体に向けて、SDGsの基本的な概念、取り組む意義、そのための協働の重要性についての講演を企画し、（一社）環境パートナーシップ会議・高橋朝美さんに講演していただいた。本事業は鳥屋尾理事が担当し、ファシリテーター・コメンテーター

として登壇した。

(リンク：<https://www.city.kasukabe.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakuka/gvomuannai/14/8/13571.html>)

④ その他の自主事業・活動

(ア) 教材開発とESDカフェTokyo「絶滅危惧種シリーズ」の実施

絶滅危惧種／希少動物をテーマに様々な社会課題を含む教材開発を行い、ESDカフェで披露、テーマの専門家等の講師のお話を聞く親子連れを対象にしたイベントを企画したいと考えており、助成金に申請した。大成建設自然・歴史環境基金に採択されたため、2022年度に2回、絶滅危惧種／希少動物をテーマにしたESDカフェを開催する予定である。

3 オンラインセミナーシリーズ

毎月第4土曜日13:00～15:00に継続して計11回実施した。要旨は以下の通り。

全体テーマ：「SDGsを見据えた人づくり～ESD for 2030」～コロナ時代の持続可能な社会をどう創るか～

4月	キックオフミーティング	https://www.esd-j.org/news/5860
	・担当理事：小金澤 孝昭、鈴木 克徳、福井 光彦、鳥屋尾 健	
5月	「自治体の地域づくりのSDGs+ESD実践」	https://www.esd-j.org/news/6084
	・担当理事：小金澤 孝昭 ・講師：高橋 直樹課長（大崎市産業経済部世界農業遺産推進課） 柳沼眞理さん（仙台市環境共生課：齋藤雅晃さん、FEEL SENDAI委員）	
6月	「プラスチックごみ問題とSDGs/ESD」	https://www.esd-j.org/news/events/6353
	・担当理事：福井 光彦 ・講師：平尾 禎秀さん（環境省環境再生・資源循環局総務課 リサイクル推進室長） 内貴 研二さん（サントリーホールディングス株式会社コーポレートサステナビリティ推進本部）	
7月	「ESD世界会議の結果を踏まえて」	https://www.esd-j.org/news/events/6569
	・担当理事：鈴木 克徳 ・講師：田代 久美さん（環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室 室長補佐） 野口 扶美子さん（国連大学サステナビリティ高等研究所） 及川 幸彦さん（東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員）	
8月	「ESD×持続可能な消費と生産」	https://www.esd-j.org/news/events/6905
	・担当理事：下村 委津子	
9月	「地域が変わる！SDGs四国ESD実践事例紹介」	https://www.esd-j.org/news/7124
	・担当理事：宇賀神 幸恵 ・講師：井上 修さん（善通寺こどもエコクラブ代表） 久米 紳介さん（うどんまるごと循環コンソーシアム事務局長）	
10月	「国際交流・ユース×ESD」	https://www.esd-j.org/news/7512
	・担当理事：三宅 博之 ・講師：後藤 加奈子さん（ブルーアース青い地球の会） 服部 祐充子さん（地球校友クラブ代表） 弥山 葵（やまあおい）さん（北九州市立大学4年生）	
11月	「ESD×森林×地域づくり」	https://www.esd-j.org/news/9148
	・担当理事：鳥屋尾 健 ・講師：石坂 真悟 さん（NPO法人多摩源流こすげ（源流大学））	
12月	「次世代のESDを担うユースのエンパワーメント」	https://www.esd-j.org/news/9557

	◆コーディネーター：飯田 貴也さん（NPO法人新宿環境活動ネット・代表理事） ◆ゲスト・スピーカー： ・富塚 由希乃さん（みなとく株式会社、日本サステイナブル・レストラン協会） ・串田 大亮さん（飲料メーカー・CSV担当） ・原 智美さん（国立国会図書館） ・和田 恵さん（慶應義塾大学SFC研究所・上席所員、SDGs-SWY・共同代表、NPO法人新宿環境活動ネット・理事） ・加藤 超大さん（公益社団法人日本環境教育フォーラム・事務局長）	
2月	「学校教育におけるESD/SDGs」	https://www.esd-j.org/news/10482
	・担当理事：池田 満之 ・講師：徳山 順子前教育長（岡山県早島町教育委員会）	
3月	「オンライン交流会」	https://www.esd-j.org/news/10613
	講師：ESD-J理事池田 満之、小金澤 孝昭、鈴木 克徳、鳥屋尾 健、福井 光彦	

延べ参加者数は279名、原則毎月開催し、前年度と比較して開催回数が多かったこともあり、全11回の平均の参加者数は前年度よりも若干少なく25名だった。一般参加者のリピーターは46名で、ほぼ毎回参加してくださる熱心なファンを獲得することができた。オンライン開催の特長を活かし、韓国からのライブ配信で現地の様子を伝えたり、日本全国で活躍する講師にご講演いただいたり、参加者も海外や日本全国から募ることができた。

【オンラインセミナーの要旨】

参加者人数（延べ）	279名
各回の参加者数（関係者除く）	第1回13名、第2回29名、第3回48名、第4回36名、第5回43名、第6回36名、第7回18名、第8回13名、第9回9名、第10回22名、第11回12名（平均25名、2020年度の平均は28名）
リピーター数	理事7名、一般46名 （一般のリピーターの参加回数 2回34名、3回9名、4回2名、5回2名、7回3名、8回1名、10回2名）
アンケート回答者数	215名（第2回～第11回、第1回はアンケートの実施無し）
非会員率	60%（2020年度の非会員率51%） ※オンラインセミナーをきっかけに今年度入会してくださった方 3名

4 国際協力事業

ESD-Jの中長期計画の検討の一環として、国際協力分野での活動について検討し、海外との情報の相互発信と学び合い、関係者とのグループ形成の検討、国際事業の実施と継続性の担保を国際分野における3本の柱とすることを決定した。

(1) アジアのESDに関するNGOネットワーク（Asian NGO Network on ESD: ANNE）

国際事業に関しては、アジアのESDに関するNGOネットワーク（ANNE）の再構築に向けた加盟団体の情報を収集するとともに、ESD for 2030 Net等、その他の国際的なネットワークに関する情報を収集した。ANNEに関しては、インド、インドネシア等の加盟団体の最近の情報を収集した。

国際事業に関しては、助成金申請について検討したが、事業実施体制の見通しが立たないため、2021年度には申請に至らなかった。2022年度の申請に向けた検討を行っている。

SDGs・ESD関係の国際活動を効率的に推進するため、日本ESD学会が2022年5月に主催する

ESD関連団体の意見交換会に参加し、日本ESD学会、日本環境教育学会、ユネスコ・アジア文化センターをはじめとする他の国内の団体との国際協力分野での連携方策を模索することとした。

(2) ESDに関する国際情報の発信

ESD-Jのメーリングリストを活用して国際情報の発信を行った。具体的には、2021年4月～2022年3月の間に、104件の国際情報と、関連する3件の号外情報を発信した。発信内容は多岐にわたっており、会議の開催情報、会議の結果情報、重要な報告書の概要説明、その他に及んでいる。情報の入手源は、UNESCO、UNEP、各種条約事務局やOECD、UNESCO教育研究所、世界経済フォーラム（WEF）、世界大学協会（IAU）、IUCN等多岐にわたっている。特に重要な情報例は以下の通り。

- ① 2021年5月に開催されたUNESCOによるESD世界会議の関連情報、結果情報
- ② UNESCOによる「若者主導のイニシアチブと教育の未来」に関するウェビナーシリーズの開催案内と結果報告
- ③ OECD開発援助委員会（DAC）による「市民社会の強化に関する政策手段」に関する勧告
- ④ UNESCO、OECD及びEducation International による「気候行動への教育（Teaching for Climate Action）イニシアチブ」ウェビナーシリーズの開催案内と結果報告
- ⑤ UNESCOによる「教育の未来」報告書
- ⑥ 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書第1作業部会報告及び第2作業部会報告の概要
- ⑦ 国連気候変動枠組条約COP26関連情報とグラスゴー気候合意（Pact）の解説
- ⑧ 世界経済フォーラム・ダボス会議の概要
- ⑨ 第5回国連環境総会再開会合関連情報と成果報告
- ⑩ 第四11回世界環境教育会議（WEEC2022）関連情報

日本の報道が会議の結果や報告書などの一部のみをハイライトする場合があることに対し、原典のURLを明記し、その内容を包括的に報告する点に特徴がある。これらの情報のうち、60件はESD活動支援センターのウェブサイトにも掲示し、幅広い周知を図っている。なお、より幅広い情報を収集し、また、より多くの人と共有するための仕組みについて引き続き検討している。

(3) 台湾環境教育学会との交流

中華民国環境教育学会（CSEE）より、ESD-JとのESD研究・実践に係る交流、台湾におけるESD推進のための連携・協力の要望を受け、MOUの締結の準備を進めた。

5 その他の活動

(1) 地域に開かれた学習支援（第12期東京都生涯学習審議会の審議委員）

2021年1月より、ESD-Jを代表して横田事務局長が2年間の任期で第12期東京都生涯学習審議会の審議委員となり、毎月審議会に出席することになった。今期は、『未来の東京』戦略に掲げられた考え方を、地域コミュニティにある施設としての都立学校（主にハード）を活用してどのように具現化していくかを他の9名の議員と議論しながら、施策に落とす作業を行う。

III 運営体制、及び組織基盤強化

1 ESD-J運営体制

(1) 役員 (理事14名、監事2名、顧問4名)

役 職	氏 名
代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	宇賀神幸恵、大島順子、小金澤孝昭、小玉敏也、下村委津子、新海洋子、鈴木克徳、鳥屋尾健、中田和彦、福井光彦、三宅博之
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫

(2) 役員役割表

役 割	氏 名
組織運営理事*	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、小金澤孝昭
総務・労務・経理担当理事	重政子、池田満之
広報担当理事	下村委津子、福井光彦
羅臼事業担当理事	中田和彦、鈴木克徳、池田満之
全国センター情報収集・発信業務担当理事	小金澤孝昭、鈴木克徳
ステイクホルダー間の連携担当理事	【学校】 小金澤孝昭、小玉敏也 【国際協力分野】 鈴木克徳、三宅博之
地域担当理事	【北海道】 中田和彦【東北】 小金澤孝昭 【関東】 鳥屋尾健、小玉敏也【近畿】 下村委津子 【中国】 池田満之【四国】 宇賀神幸恵 【東海・北陸】 新海洋子、鈴木克徳 【九州・沖縄】 三宅博之、大島順子
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫

(3) 事務局

役 割	氏 名
事務局長	横田美保
事務局スタッフ	武田朋子、齋藤さおり、後藤奈穂美

※ 組織運営理事とは、代表理事を助け、組織運営に係る案件を整理する役割を担う。また、組織運営委員会は、代表理事が指名する組織運営理事と事務局長から構成される。

※ 中田和彦理事は2020年3月31日付けで辞任

<2021年度の会員数> 総数175 (カッコ内は前年度の会員数)、±差異を表示

種 類	会 員 数	種 類	会 員 数	種 類	会 員 数
団体正会員	38 (38) ±0	団体準会員	14 (14) ±0		

種 類	会員数	種 類	会員数	種 類	会員数
個人正会員	50 (54) -4	個人準会員	68 (65) +3		
賛助会員	4 (4) ±0	特別賛助会員	1 (1) ±0	連携交流団体	5 (5) ±0

2 組織基盤強化

(1) 広報活動

オンラインセミナーの実施や好事例の情報収集・発信を中心として、ESD-Jのファンづくりに努めた。その結果、僅かながらオンラインセミナーを契機とした会員の増加が確認できた。新型コロナウイルスが収まらず、対面では開催できなかったが、オンラインセミナーの最終回はオンライン交流会という形で開催した。

理事に推薦していただいたESD/SDGsを推進している自治体、企業、市民団体等の関係者にはESD-J主催のオンラインセミナー、並びにローカルSDGs人材育成地方セミナー業務の講師としてご登壇いただき、実施報告の記事をウェブサイトに掲載、SNSやMLで広報した。SDGs人材育成地方セミナーについては、全ての回の動画をYouTubeに掲載したのでその旨も広報し、好事例の普及に努めた。(URL：https://www.youtube.com/channel/UCE9Ls7lPvt6r_ovGYpVwNDw)

セミナー参加者には、ESD-J入会を促した。また、会員でなくてもESD/SDGs関連の情報を希望する方はリスト化し、情報発信を行った。

(2) 効果検証に基づく情報発信の強化

ESD/SDGs活動の推進のための情報提供、ESD推進ネットワークの強化に向けた会員の維持・拡大を目指し、メーリングリスト(投稿計421回、ESD-J関係者国際情報123回、ESD-J関係者229回、会員69回)、ウェブサイト、SNSを活用した情報発信・広報ツールの強化、ニュースレターの定期発行(年4回)等による会員等への情報発信を行った。

昨年度のGoogle AnalyticsとGoogle Search Consoleなどのウェブ解析に基づき、ESD-Jが発信する情報の利活用の傾向、強み、弱みが見えてきたので、ウェブサイトの改訂を含む広報ツールの強化を目指したが、ウェブサイトの改訂のための資金が獲得できなかったために、大幅な改善は行えなかった。(ウェブ解析結果は参考資料の3を参照のこと)

(3) えるぼし³、くるみん⁴、エコアクション21⁵の取得に向けた活動

組織基盤の強化として、2021年度は下記の取り組みを行った。

① えるぼしの取得に向けた活動、制度の整備

一般行動計画に基づいて、えるぼしの取得に向けた活動を実施した。具体的には、職員の有給休暇の取得の推奨、有期契約労働者が無期契約労働者へ転換する制度の整備、短時間勤務制度の柔軟な運用のための制度の整備と職員への周知等である。女性活躍推進企業データベース、並びに当団体ウェブサイトに掲載しているデータを更新した。

② エコアクション21⁵の取得、取得後の活動について

2021年4月8日に現地審査が実施され、5月の中央事務所の審査委員会を経て、6月3日正式に認証が取得できた。環境経営計画に基づく取り組みを実施し、毎月、四半期ごとのデータのまとめ、年次報告書の作成と評価、次年度の計画作成を行った。

³ 厚生労働大臣による女性の活躍推進の状況などが優良な企業、団体の認定制度

⁴ くるみん：厚生労働省が仕事と子育ての両立支援に取り組んでいる企業、団体を認定する制度

⁵ 環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム(EMS)。一般に、「PDCAサイクル」と呼ばれるパフォーマンスを継続的に改善する手法を基礎として、組織や事業者等が環境への取り組みを自主的に行うための方法を定めている。

◆ESD-Jのウェブサイトに掲載：<https://www.esd-j.org/aboutus/outline/report/report06>

③ 組織基盤強化の研修の受講

未来につなぐふるさとプロジェクトの一環として受けられる非資金的支援として「成果評価のための指標づくり」をNPOの事業評価のコンサルタントの講師から教えていただいた。事業成果の達成値と測定方法に関するアドバイスを頂き、2030年に向けたESD-J活動計画の策定の指標作りに活かした。

IV 会議等予定

会議名	開催日	開催方法
<総会>	2021年6月19日（土）	電磁的方法で開催した
<理事会> 第1回理事会 第2回理事会 第3回理事会	2021年5月29日（土） 2021年10月16日（土） 2022年2月12日（土）	電磁的方法で開催した
<理事懇談会> 第1回理事懇談会 第2回理事懇談会 第3回理事懇談会 第4回理事懇談会 第5回理事懇談会	2021年4月17日（土） 2021年5月29日（土） 2021年6月19日（土） 2021年8月8日（日） 2021年11月20日（土）	

V 参考資料

1 協賛・後援名義の実績

No.	種類	団体名	イベント・企画名
1	後援	COLOMAGApj	子どもローカルマガジンプログジェクト COLOMAGA
2	後援	公益社団法人ガールスカウト日本連盟	国際ガールズメッセ
3	共催	四国地方ESD活動支援センター	2021年度四国ESDバーチャル大学（ESDVU） 第5回勉強会「四国ESD実践事例紹介」
4	協力	特定非営利活動法人日本エコツーリズムセンター	緊急告知「コロナに負けないRQの支援 活動を考える」オンラインミーティング
5	協力	特定非営利活動法人日本エコツーリズムセンター	オンラインフォーラム「エコツアー・自然 体験活動の感染症対策を考える」
6	後援	麴町納税貯蓄組合連合会	税で考える週間シンポジウム「納税で持続 可能な日本に」
7	後援	公益社団法人日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2021@オンライン (通算35回目)

No.	種類	団体名	イベント・企画名
8	後援	日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会	公開ワークショップ『Future Earth 持続可能な社会の創り手を育てる学び～海の学び、ESD/SDGsの学びを豊かに～』
9	後援	第14回つなぐ人フォーラムonline開催事務局(公益財団法人キープ協会 環境教育事業部)	第14回つなぐ人フォーラムonline
10	後援	四国地方ESD活動支援センター	四国ESDフォーラム2022
11	後援	特定非営利活動法人環境パートナーシップちば	全国学生 SDGs フォーラム in ちば ～2030 年に向けた学生の集い～

2 ESD-J理事の講師派遣等実績の要旨

活動内容	件数	受益者数
講演・講義	41件	2,316人
委員会委員	43件	423人
その他(イベント・ワークショップ実施、視察対応、研修会の運営、シンポジウム等の参加及びコーディネート、指導助言等)	81件	2,396人
合計	165件	5,135人

3 Google Analyticsによるウェブサイトの分析結果

(1) 訪問ユーザー数⁶・セッション数⁷

- ① ユーザー数は、26,972ユーザー(昨年17,104ユーザー/昨年9,956ユーザー)と昨年の1.6倍に増えた。
新規ユーザーは27,045ユーザー(昨年16,888ユーザー/昨年9,870ユーザー)であった。
※新規ユーザー数がユーザー数を上回っているのは、本来ありえない。しかし、初めてのユーザーがサイト訪問中に日付が変わるとプラス1カウントされる仕組みになっているためこのような結果となった。このことから73名の新規ユーザーが日付を跨いで深夜にアクセスしたことが分かる。
- ② セッション数は、34,780回(昨年21,456回/2019年12,461回/2018年12,253回/2017年8,908回)昨年度より1.6倍増加した。うち77.8%は新規セッションであった。(昨年は71%)
- ③ 1ユーザーあたりのセッション数は1.29(昨年1.25)。1セッションあたりのページビュー(PV)数は3.01(昨年3.24)。平均セッション時間は1分37秒(昨年1分52秒)だった。直帰率⁸は、22.19%(昨年24.66%)と、年間平均では2.5%改善した。
2021年度の特徴として、直帰率(bounce rate)が7月を境に大きく変化している。4月～6月は46.65%だが、7月～3月は12.94%と大きく減少している。PVの離脱率⁹も同様に4月～6月の平均は39.20%だが、7月～3月は31.29%に減少している。1セッション当りの閲覧ページ数(PV)も年平均では3.01だが、4月～6月は2.55ページで、7月～3月は3.19ページと差がある。
直帰率について、もう少し詳しく見てみると、4月～6月の平均44.33%、7月～10月の平均18.25%、11月～2月の平均7.00%となっている。この要因として、それまでランダムに配信していたイベント・セミナーなどの告知メールを、2021年度7月第2週から週1回のメールマ

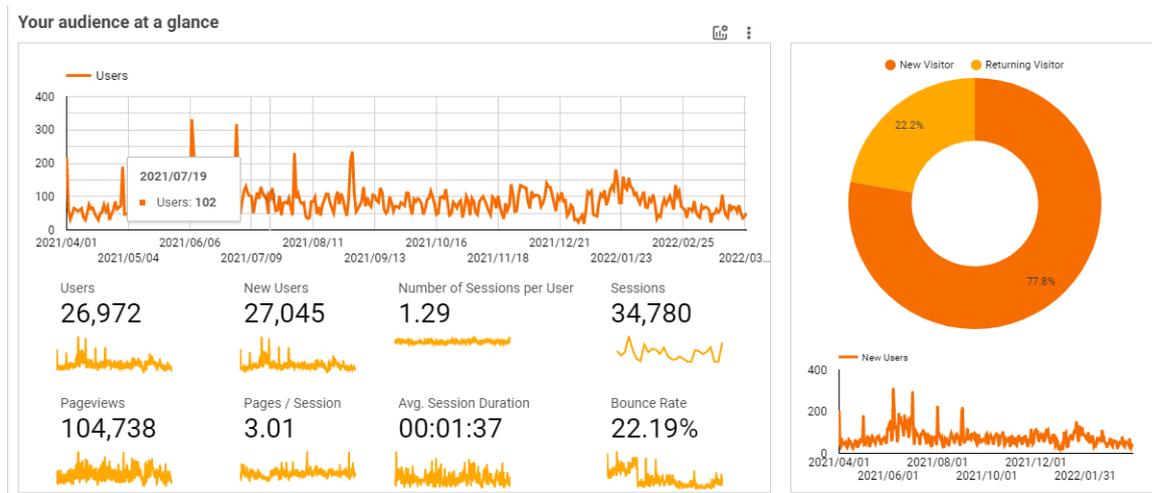
6 ユーザー数：指定した集計期間において、サイトへの訪問した人数から重複を除いたもの。

7 セッション数：ユーザーがサイト訪問した回数を意味し、別名「訪問数」とも呼ぶ。

8 直帰率：全セッション中、1ページだけで離脱した人の割合。

9 離脱率：PV中、そのページが離脱する最後のページになった率。

ガジンに集約して配信するようにしたことが挙げられる。また、11月末からは、環境省請負業務のローカルSDGs人材育成セミナーの告知が開始され、高い頻度で情報を更新し、参加者募集の努力を重ねたことがこの数字に反映されている。

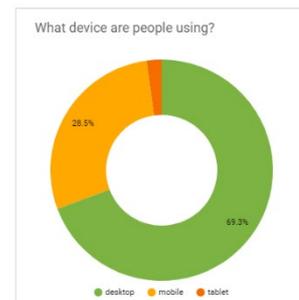


(2) アクセスユーザーの属性

- ① ユーザーの使用言語は日本語が71.5% (昨年76%) を占め、次いで英語17.93% (昨年12%)、残りは中国語、韓国語などのアジアが多い。

大陸別で見ても言語同様にアジア85.53% (昨年87%)、アメリカ12.27% (昨年8%) からのアクセスが多く、ヨーロッパ大陸、アフリカ大陸からもアクセスはあるが少ない。昨年と比較すると英語圏のユーザーが若干増えた。

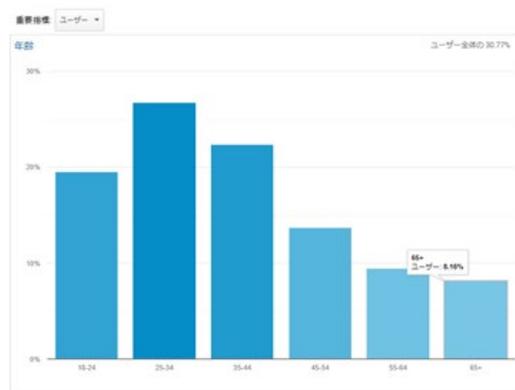
- ② 使用デバイス別に見ると、デスクトップPCが69.3% (昨年58%/一昨年48%)、モバイルが28.5% (昨年38%/一昨年47%)、タブレットが2.2% (昨年3%/一昨年5%) となった。モバイルの割合が減り、デスクトップPC利用率が上がったのは昨年から引き続きコロナによる在宅時間が長くなったことが原因と思われる。



(3) 世代別

Google Analyticsの自動判別で、性別や年代が分かるユーザーは全体の30%程度と限られているが、参考までに昨年同様に傾向を見ていくと25歳～34歳の層が26.75% (昨年25%)、35歳～44歳の層が22.35% (昨年24%) と、ここまですべてを占める。最も若い世代の18歳～24歳の世代は19.53%を占める。昨年と比べると僅かながら若いユーザー (10代、20代) が増加している。

性別・年代で、直帰率や平均ページ滞在時間に顕著な傾向は見られなかった。



(4) 男女比

男性57.8% (昨年53.9%)、女性42.2% (昨年46.1%) と僅かではあるが、昨年から更に男性が多い傾向が増した。

(5) 閲覧者のアクセス経路

ESD-Jのサイトまでの流入経路は、全セッション34,780（昨年21,456）のうち、サーチエンジン経由が54.8%（昨年57.5%）、直接アクセス36.4%（昨年36.5%）、残り8.8%（昨年6%）が、他のサイトからのリンクやソーシャルメディア（FB、Twitterなど）からとなっている。参照元別に見ると、Google38.4%（昨年41.5%）、直接32.8%（昨年33.8%）、Yahoo10.8%（昨年12.1%）、bing5.8%（昨年4.1%）、フェイスブック（モバイル等合計）1.6%（昨年2.5%）、Baidu（中国最大の検索エンジン）が1%であった。

(6) 閲覧者の行動

① ページビュー

2021年度のページビュー数は104,738PV（昨年69,535PV）、ページ別訪問者数は48,711（昨年32,225）、平均ページ滞在時間は48秒（昨年49秒）となった。

昨年度と比較してPV数は1.5倍に増加した。（2017年50,320PV、2018年53,647PV、2019年54,996PV）。離脱率は、33.12%（昨年30.82%）。

② 訪問数の高いサイト

順位	タイトル	2021年度PV数	前年度比較
1位	ESD-Jトップページ	20,204PV	15,257PV
2位	ESDとは？	6,899PV	4,756PV
3位	地球温暖化対策推進法の一部改正法の成立	5,906PV	-
4位	募集) ローカルSDGs人材育成地方セミナー	3,948PV	-
5位	第2回ESDトーク 鈴木大輔さん	2,652PV	4,708PV
6位	ESD-J 理事・事務局紹介	2,594PV	1,973PV
7位	ESD for 2030	1,647PV	481PV
8位	オムロン株式会社様の取り組み	1,562PV	42PV
9位	気候変動問題等（中略）教育の充実について	1,557PV	-
10位	ESDの歴史	1,323PV	590PV

③ ダウンロードと外部リンク

イベントカテゴリー別に、ダウンロードは15,088PV（昨年7,413PV）、外部リンクへの誘導は13,826PV（4,779PV）、電話へのリンクが160PV（昨年4PV）であった。

最も多く外部リンクへ誘導したのは、訪問数第3位の「環境省地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律案の閣議決定について」のサイトから、環境省への同文書へのリンク（575件）、次いで訪問数第7位の「ESD for 2030」のサイトから、「UN General Assembly highlights UNESCO's leading role in the Education 2030 Agenda」へのリンク（145件）であった。

最も多くダウンロードされたのは、訪問数第9位の「気候変動問題をはじめとした地球環境問題に関する 教育の充実について（通知）」のサイトから同文書のPDFダウンロード（223件）、次いで、訪問数第4位の「【参加者募集】環境省主催 令和3年度ローカルSDGs 人材育成地方セミナー<9カ所>」のサイトから「全体チラシ」PDFのダウンロード（173件）であった。

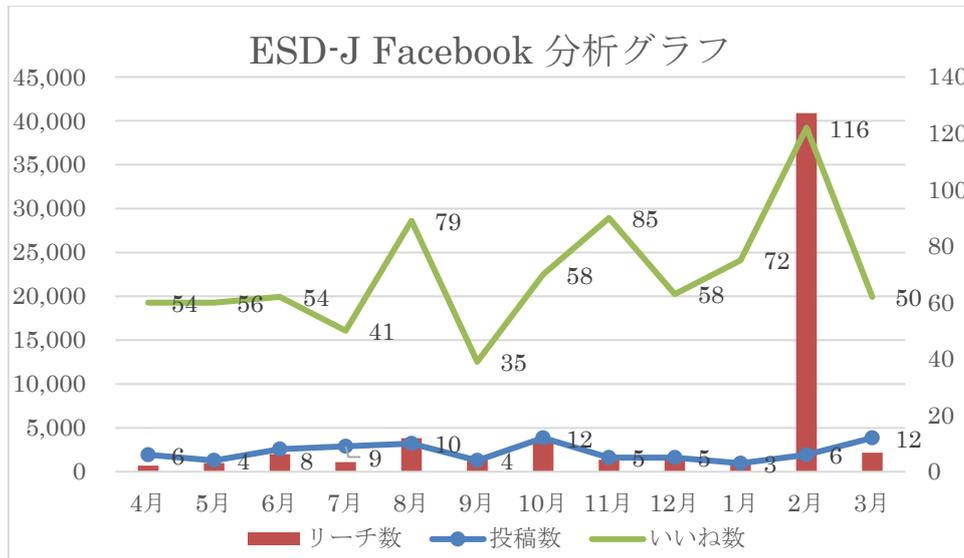
<Facebook Insightからの集計情報>

(1) 年間投稿数

今年度の投稿数は、84件（前年度87件、前々年度94件）であった。リーチ数は60,337人（前年度21,173人、前々年度29,747人）であった。また、投稿に対する「いいね!」、シェア、コメント、クリック（写真・リンク・その他）といった4種類のリアクションをした人数（=エンゲージメント数）は758人（前年度1,130人、前々年度1,774人）であった。なお「投稿にリアクションした人

数 ÷ 投稿がリーチした人数」で算出されるエンゲージメント率を用いて、ユーザーからの支持の高さを測り、エンゲージメント数と、エンゲージメント率を上げるように広報活動は一般的に行うのだが、ESD-Jの年間平均エンゲージメント率は3.7%（前年度5%）であった。このエンゲージメント率は、0.5～2%が平均である。従って、ESD-Jのフォロワーは得た情報に対して高い確率で何らかのアクションを起こしていると言える。

FBフォロワー数は、4月1日に2,094人であったのが3月31日に2,154人と60名（前年度33名）増えた。



初めての試みで、ローカルSDGs全体セミナーの集客のため、有料Facebook広告を2/18に契約し利用した。2月18日に16,319リーチ、2月19日に6,454リーチ、2月20日に5,350リーチ、2月21日に5,788リーチ、そして、2月22日に5,350リーチを得た。

もう一つ特筆すべきは、9月に投稿した鈴木大輔先生と鮫田晋さんのESDカフェの案内は、1件で1,312リーチ、良いね108とエンゲージメント数は8%を越える。